

5. 今月のトピックス「アブラナ科野菜の根こぶ病について」

被害の様子

根こぶ病は、アブラナ科植物に特有の病害であり、一旦発病すると防除が困難な土壤伝染性病害です。本病に感染すると、根に大小さまざまなこぶが多数できます。土壤中からの水分や養分の吸収が妨げられ、晴天の日中に茎や葉が萎れるようになります(図1)。生育が遅れて葉色は褪せ、収穫物の品質も低下します。ネコブセンチュウの被害でも似たような症状が見られますが、本病よりもこぶが小さく、根全体にできるので区別できます。



図1 キャベツにおける被害の様子(農業研究所 鈴木啓史氏原図)

三重県内での被害状況

巡回調査では、年次によって発生の多い年もあります(図2)。県内では主にキャベツやハクサイ、ナバナが栽培されており、被害が散見されますが、近年生産現場における発生は増える傾向にあります。

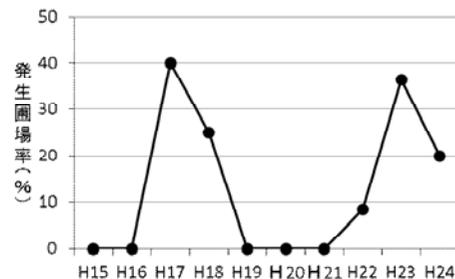


図2 冬キャベツにおける発生状況の推移

病原菌の生態

病原菌(*Plasmodiophora brassicae*)はカビの一種であり、根こぶの中に多数存在します。こぶが腐ると土壤中に分散し、宿主植物がなくても4年以上、ときには10年以上も生き残ります。そのため、一度発生した圃場では、長期間にわたって被害が発生する可能性があります。また、農作業にともなう土の移動や降雨などによって、発生圃場から周辺へ広がることが多いです。

発生しやすい条件

アブラナ科植物を連作すると多発しやすくなります。病原菌は水分を好むため、排水の悪い圃場で発生が多く、夏から秋にかけて雨の多い年も増加しやすいです。また、地温が20℃前後で日照時間が長いと発生しやすいため、8~9月に播種または定植する作型で被害が多くなります。土壌pHも影響し、酸性(pH6.0以下)であると発生が助長されます。

防除対策

- 1) アブラナ科植物の連作を避けてください。
- 2) キャベツでは耐病性品種の利用を行ってください。
- 3) 排水を良くする、高畦栽培を行うなど、圃場の排水対策を行ってください。
- 4) 石灰資材や転炉スラグなどを施用し、土壌酸度を矯正してください。
- 5) 被害株や残渣は圃場外に持ち出して適切に処分し、伝染源を減らしてください。
- 6) 発生圃場で使用した農機具や長靴などに付いた土壌はきれいに洗い落としてください。
- 7) 薬剤防除は土壌処理剤になります。登録内容を確認し、適正に使用してください。

転炉スラグ: 土壌改良資材の一種、製鉄過程で生じるCV副産物。